

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の見える所に掲示して、共有し、常に心掛けています。 カンファレンスで、職員全員で話し合い、ケアについて統一を図っています。	理念を台所に掲示し、意識するよう心掛け支援に取り組んでいる。2ヶ月に1回発行されるホーム便り、「まんでん通信」には必ず理念を掲載しホームの取り組み姿勢をお知らせしている。家族に対しては利用契約時にパンフレットに合わせ説明している。月1回開かれるカンファレンスで、理念に沿った取り組みが出来ているかを話し合い確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新聞を作成し、回覧をお願いしています。 行事を行う時は、足を運んでいただけるよう通知をしています。 散歩や買い物など、出掛けた時は挨拶を交わしたりしています。	自治会費を納め地域の一員として活動している。町の広報誌も届けていただき行事等の情報も把握できている。町社会福祉協議会主催の「ふれあい広場」にはホームの枠を取っていただき作品を展示し、それに合わせて見学に出掛けている。また、「まんでん通信」を回覧板で回していただき、合わせてホームの行事の際には近隣にポスティングでお知らせし来訪して頂いている。更に、大雪の際には地域の方に雪かきをお願いして快く応じていただき良い関係性が出来ている。また、看護師の職場体験の受け入れも行い、介護を体験していただいている。演歌体操、ギター、ピアノ、ハーモニカ等のボランティアの来訪も定期的にあり、利用者との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で認知症関連講習会を開催しています。 運営推進会議等で話をしたりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告をして意見要望等を聞き、話し合い、サービス向上に努めています。	2ヶ月に1回、奇数月に家族代表、自治会長、隣組組長、民生委員、消防団長、駐在所所員、役場担当者、ホーム関係者の参加で開催している。活動報告、評価結果報告、要望、助言等活発な意見交換を行い運営に役立てている。特に災害防災関係では当ホームを地区の避難場所として提案している。また、雪対策、熊、サル対策についても熱心に話し合われている。役場と駐在所には会議案内を事前にお持ちし内容について相談もしている。合わせて駐在署員には付近のパトロールもお願いしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケア会議に参加しています。 認定更新時等、担当者で連携をとっています。 書類提出等は、郵便ではなく直接担当者に届けるなどして、話す機会を作っています。	役場高齢福祉課に訪問し様々な事柄について相談している、合わせて地域包括支援センターにも待機者紹介等について相談している。介護認定更新調査は家族立会いの下、調査員が来訪しホームにて行い家族の希望もお聞きしている。地域包括支援センター主催の各種研修会には職員の参加希望も聞き、知識の習得を目的に積極的に参加している。	

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が、身体拘束についての研修等に参加して学び、ケア会議で全員で学習をしています。身体拘束をしないケアについて掲示しています。ご家族と、その都度話し合い、相談しています。	玄関は日中開錠されドアが開くとチャイムで知らせてようにセットされている。外出傾向の強い利用者があるが自由に行動していただき職員が後ろを見守り納得するまで歩いていただき話をし戻るようにしている。転倒・落下防止のため家族と相談し、夜間ベットの柵利用の方がいるが経過を記録し、検討の場ももち、早期の解除に向けて取り組んでいる。各利用者の生活習慣を掴み、職員間の声掛け連携を密にして拘束のないケアに取り組んでいる。身体拘束の外部研修に合わせて年2回内部での研修も行い、意識の統一を図り支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が、虐待防止の研修会等に参加して学び、ケア会議で全員で学習しています。虐待防止の徹底について掲示してあります。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用していませんが、研修会等に参加し、ケア会議等で復命しています。今後、必要性もあるので、活用できるように学びたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明し、同意を得るようにしています。話しやすい環境作りにも努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に現在の様子等を連絡報告し、訪問時等に意見要望をお聴きしたり、話を伺うようにしています。	職員は利用者個々の話をきめ細かく聞くよう心掛け、仕草からも希望を受け止め、出来ることはやっただき「その人らしい生活」が送れるよう取り組んでいる。家族の来訪は週1回から2・3ヶ月に1回と幅広いが、来訪促進の工夫として管理者が利用者の状況を手紙にし請求書に同封し知らせている。合わせてホーム便り、「まんでん通信」も届け、ホーム全体の様子も知らせている。敬老会、クリスマス、忘年会、夏祭りなどの際には家族会を開催し、刺身、お寿司、オードブル等の食事とボランティアの出し物で楽しい1日を過ごしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で意見を聞くようにしています。管理者は常に、意見や提案を話しやすい環境の整備に努めています。	毎月28日の19時よりカンファレンスを行っている。意見の出し易い雰囲気作りにも心掛け、意見交換や提案を積極的に引き受け、支援の向上に繋げている。利用者個々について気づいたこと、家族来訪の様子、連絡事項、様々な提案事項等を連絡帳に記載し、全職員が情報を共有し気持ちを一つにして取り組んでいる。また、職員のマンパワーアップにも力を入れており、希望も受け入れながら様々な研修受講の援助を行い、知識の習得に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体調管理には十分注意しています。研修会等にも参加できるように、声掛けをしています。職員それぞれが、意見要望等を話しやすいように、環境の整備に努めています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には、案内等を掲示したりして、出来る限り参加できるようにしています。ミーティングでも報告しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会等にも参加して、学習会や交流を持つことにより、サービスの向上を目指しています。出来るだけ機会を作っています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、本人の様子を見たりお話をしたりしています。ホーム内の見学もしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が話しやすいような環境作りに努め、お話(これまでの経緯など)を、ゆっくり聴くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の思いを聴きながら、信頼関係を築くと共に、必要としているサービス支援を考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが笑ったり、喜んだり、悲しんだり、困ったことを感じ、時には人生相談をしたり、助言をしていただいたりと、信頼関係を築くと共に、協働しながら生活するようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも、出来る限り来所していただき、ご本人とゆっくり過ごせるようにしています。来所しやすく、話しやすい環境作りにも努めています。イベント等を計画し、参加していただくようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会いに出かけたり、来所していただいております。会いに来ていただきやすい環境作りに努めています。地域の方々とふれあう場所に出向いたり、知り合いの方々とお会いする機会を設けています。	親戚や知人の来訪があり、面会名簿を家族にお見せしお知らせしている。知人より電話や手紙が来る方もいる。また、管理者が外出する際、希望者を車に乗せて出掛け、馴染みの場所をドライブし楽しんでいる。利用者同士が近所だった方、子供さん同士が同級生だった方などいて、和気あいあいとした雰囲気の中で日々生活している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に入る時間以外は、共同スペースで職員も一緒に過ごしています。利用者さん同士、職員も含まり、共同作業をしていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外でお会いすると、お互い声をかけたり、ホームにも顔を出したりしてくれています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から、思いや意向を聴けるよう機会を作っています。話しやすい環境作りにも努めています。 記録に、本人の言ったことなどを書くようにしています。センター方式などを利用して、アセスメントしています。	ほぼ全員の利用者が意思表示の出来る状況である。話し易い環境作りにも心掛け、問い掛けの中から意思決定をしていただくよう心掛けているが、嫌なことは無理強いをせず自由に過ごしていただくようにしている。職員が気を使っていると利用者も気を使うので自分の親に話し掛けるような自然な対応に心掛けている。食事の食べっぷり等、表情で判断し、1対1で話をする時間を大事にし、居室で話しをするようにしている。家族からお聞きした基礎情報も参考にしながら日々の様子を個人記録に纏め情報を共有し、利用者の想いに寄り添う支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に出来る限り教えていただいたり、ご本人とお話の中から聞き出しています。話しやすい環境作りにも努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること、出来ないこと、嬉しいこと、嫌なことなど、普段の生活や会話の中から見つけ出して記録したり、シートを使用したりして把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人となるべく一緒に考え、作成しています。カンファケンスなどで、ケアの在り方など意見交換したり、連絡ノートを活用したりしています。ご家族にも連絡しています。	ケアプラン実施表を使用して運番の職員が項目に従い日々モニタリングを行い、カンファレンスにおいてケアマネージャー中心に意見を出し合い検討し、家族にも連絡を取り希望をお聞きし介護計画を作成している。基本的に3ヶ月～6ヶ月で見直しを行い、状態に変化が見られた時には随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、ご本人の言葉、エピソードなど記入しています。 記録の記入について、職員間で工夫しています。 ケアプラン実施表を作成して毎日記入し、実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出や病院受診などの外出には、柔軟に対応しています。 表情、気分など見極め、気分転換になることは何か、原因は何かなど一緒に考えています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員に、地域の消防、警察、民生児童委員、地域の役員の方々などお願いし、ホームの理解をいただき、協力もいただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、ご家族の要望に応じ、職員同行または代行しています。情報提供もしています。協力病院では、1ヶ月に1回の往診を行っております。	全利用者がホーム協力医と看護師の月1回の往診で対応している。日々の健康管理は常勤看護師と法人の非常勤看護師の2名での管理体制が取られ、協力医との連携も万全なものとなっている。歯科は必要に応じ協力歯科医の往診で対応しており、希望の利用者については定期的に歯科衛生士による口腔ケアも行われている。その他、専門医の受診には家族と職員でお連れしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しております。24時間連携が取れるようになっています。看護職と介護職、良い関係が出来ていると思います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供し、退院までの間、ご家族や病院と連絡を密に取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご本人とご家族に説明し、方針を話し合い、重度化に伴う同意書をいただいております。	重度化についての指針があり利用契約時に説明し同意書にサインを頂いている。日々の生活を送る中で終末期を迎えた時に改めて家族の希望を確認の上同意書に協力医のサインも頂きホームとして出来る支援に取り組んでいる。この1年以内に2名の方の看取りを行い、住み慣れた場所で最期の時を迎えるに際し、後悔のないように職員が気持ちを一つにし、利用者や家族に寄り添い、全職員で最期の時を見届けお見送りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急は講習会を受けています。応急手当、処置の訓練をしています。マニュアルなど表示しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員の方の指導の下、利用者さんと共に避難訓練を行っております。連絡網の確認も行っております。運営推進会議などでも要望しています。	10月と11月の2回総合災害対策の避難訓練を行っている。そのうち1回は消防署員参加で消防署が製作した「まんでん専用の避難方法」を纏めたビデオでハザードマップに合わせ確認し、利用者全員が3ヶ所の玄関より避難している。合わせて、初期消火、通報訓練、緊急連絡網の確認、人工呼吸訓練も実施している。また、近所の方2軒と連携を取り、訓練にも参加していただいている。備蓄として「おかゆ」、「水」、「非常食」が3日分準備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを大切に考え、自分にされたり、言われたらどうかを常に心に置いて声かけをして、寄り添い、支援するようにしています。	プライベートな空間を確保することを大事にしている。オムツ交換等は必ずドアを閉めて行うよう徹底している。また、個人的な話をする時には居室で話をするようにしている。話し易い雰囲気作りに心掛け入室の際にはノックに合わせ、言葉で「コンコン、入るよ」と声掛けし入室するようにしている。利用者への声掛けは個々の雰囲気に合わせて、本人や家族に確認の上、「名字」か「名前」に「さん」付けでお呼びしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんに合わせた声かけをして、表情や気分で読み取ったり、日々の会話の中で働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのように過ごしてきたのかを把握して、ひとり一人のペースを大切に、それに合わせて生活していただくように、希望を尋ねたり、相談しながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る人には、自分で選び、着替えていただき、身だしなみも見守りで整えていただいております。出来ない人は、一緒に着替え、身だしなみも整えております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事をしています。出来る方とは、一緒に準備したり、後片付けをしています。	自力で摂取できる方が三分の二以上おり、一部介助と全介助の方が若干名ずつという状況である。一緒に食事をする中で職員が話題を提供し、話にも花が咲き賑やかな食事の時間を過ごし、量を取ることに重点を置き支援している。献立は法人の栄養士が立てたものを基本とし、調理専門職員が利用者に向けたものにアレンジしている。お手伝いは後片付けを中心に参加していただいている。誕生日には好きな物で祝いをしていく。また、ひな祭り、敬老会、夏祭り、クリスマス・忘年会等には特別食を楽しみ、外食として回転寿司にも出掛けしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとり一人の体調と摂取量を把握し、看護師とも相談したりしています。好きな物や食べやすい物をお出しするようにしています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをしています。 出来ない方は、口腔ケア用のウエットティッシュでケアしています。 毎日、義歯の洗浄も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人排泄記録を取り、パターンや習慣を、職員全員で共有し、把握して支援しています。	ほぼ全利用者が一部介助という状況で、紙パンツとパット使用の方が三分の二、オムツ使用の方が三分の一となっている。排泄表を日々作成しパターンを掴みトイレにお連れしている。オムツ使用の方は起床時、お茶の前、食事の前後、3時のお茶の前、就寝前等、6回確認し気持ち良く過ごしていただくよう勤めている。スムーズな排便促進を促すために水分、ゼリー、食物繊維の摂取を心掛けている。排泄用品については常に安い物を探す努力をし、パットの大きさを変えたり、状態によってはパット使用を取りやめ、費用削減に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひとり一人排泄記録を取り、看護職員、介護職員、調理職員で共有し、予防に心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る方は、自己決定して入浴していただいています。 体調や気分配慮しながら支援しています。 入浴表を作成し、週に1~3回は入浴できるよう支援しています。	全利用者が介助が必要で、リフト浴使用の利用者が三分の二ほどという状況である。週2~3回入浴を行い、拒否する方もなく、湯船に5~10分浸かっていただき気持ち良く温まっていたできるようにしている。季節によっては本物の「ゆず」や「菖蒲」を湯船に浮かべ季節感を味わっている。また、家族と温泉に出掛ける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したい時に、居室や共同スペースにあるコタツなど、自由に休んでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンスなどで様子を確認し、看護師と連携しています。 ひとり一人の基本情報を作成して、常に確認できるようにしています。 連絡帳など活用しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみ事などを見つけ、一緒に楽しみ、気分転換をしています。 出来ることも一緒に見つけ、声かけをしてお願ひしています。		

グループホームまんでん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り、戸外に出掛けるよう支援しています。 (ドライブ、買い物、花見、イベントなど) ご家族とも、一緒に気軽に出かけられる環境作りをしています。	外出時は自力歩行の方は1名、歩行機または杖使用の方と車イス使用の方が4名ずつという状況である。天気の良い日には玄関先のイスに座り外気浴を楽しみ、ホームの畑の草取りをしたり合わせて周りを散歩している。年間行事計画があり4月には「桜の花見」、5月には「藤の花見」、6月には「回転寿司」などの外食会、9月には「ブドウ狩り」、10月には「コスモス祭り」に出掛けており、更に、管理者と男性職員が時折少人数に分かれドライブにもお連れし外出を楽しみ、外の空気に触れるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には、使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話など、希望があれば自由にお話していただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、季節を感じられるものを飾ったり、置いたりしています。 温度、湿度計で管理しています。 利用者さんの声に耳を傾けています。	平屋造りの当ホームは各居室に合わせ玄関が3ヶ所あり、安全な造りとなっている。ホール兼リビングは天井も高く、材木がふんだんに使われ温かさが感じられる。合わせて小上がりの畳スペースには家具調こたつが備え付けられ、家庭の雰囲気を醸し出している。壁の掲示板には「まんでん通信」が貼られ日頃のホームの活動が見て取れる。そのような中、職員と共に笑顔で過ごす利用者の姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子を置き、場所づくりをしています。 共同スペースに畳のスペースがあり、コタツなど自由に過ごしていただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物品を持って来て、使用していただいております。	各居室はルームエアコンと床暖房が備えられ快適な生活が送れるようにされている。使い慣れた整理ダンス、衣装ケース、テレビ等が置かれ、壁には家族の写真、職員から送られた誕生日のメッセージカード等が飾られ自分の居場所として自由に生活していることが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、スロープ、滑り止めなど取り付けています。		